

文化・教育委員会 委員名簿

資料 1

(50音順、敬称略)

委員長	青柳 正規	東京大学名誉教授
委員	秋元 雄史	東京藝術大学大学美術館 館長
	浅葉 克己	アートディレクター、桑沢デザイン研究所所長
	池坊 専好	華道家元池坊次期家元
	市川 海老蔵	歌舞伎俳優
	今中 博之	社会福祉法人素王会理事長、 アトリエインカーブクリエイティブディレクター
	今村 久美	認定NPO法人カタリバ代表理事
	EXILE HIRO	アーティスト、プロデューサー
	小山 久美	昭和音楽大学短期大学部教授
	織作 峰子	大阪芸術大学教授
	桂 文枝	落語家
	絹谷 幸二	東京芸術大学名誉教授、文化功労者
	コシノジュンコ	デザイナー
	真田 久	筑波大学体育系教授
	SHELLY	タレント
	篠田 信子	富良野メセナ協会代表、喫茶・ギャラリーあかなら代表、 C-プランニング・フラノ代表
	杉野 学	全国特別支援学校長会顧問、東京家政学院大学教授
	銭谷 眞美	東京国立博物館長
	セーラ・マリ・カミングス	株式会社文化事業部代表取締役、 NPO法人桶仕込み保存会代表理事、利酒師
	千 宗室	茶道裏千家家元
	田中 稔三	キャノン株式会社代表取締役副社長
	種村 明頼	全国連合小学校長会会長
	野村 萬斎	狂言師
	深澤 晶久	実践女子大学文学部国文学科 オリンピック・パラリンピック連携事業推進室教授
	松下 功	東京藝術大学副学長
	宮田 慶子	新国立劇場演劇芸術監督
	村田 吉弘	特定非営利活動法人日本料理アカデミー理事長、 菊乃井主人
	山崎 貴	映画監督
	山本 聖志	全日本中学校長会会長
	吉本 光宏	株式会社ニッセイ基礎研究所研究理事

東京2020 NIPPONフェスティバルの検討状況について

1. フェスティバル検討の経緯

時期	会議	検討内容
2017年 5月～6月	文化・教育委員ヒアリング	<ul style="list-style-type: none">➤ フェスティバルの目指す方向性（コンセプト等）➤ 具体的な企画アイデア
2017年 6月	第5回文化・教育委員会	<ul style="list-style-type: none">➤ フェスティバルの枠組み（事業体系等）について議論➤ フェスティバル検討体制を決定
2017年 10月	第1回フェスティバル検討WG	<ul style="list-style-type: none">➤ 主催プログラムの公募状況を議論➤ フェスティバルの名称決定（記者会見）➤ マークの検討開始
2018年 3月	第2回フェスティバル検討WG	<ul style="list-style-type: none">➤ 主催プログラムの企画内容について意見交換➤ マーク案・コンセプト案について意見交換
2018年 7月	第6回文化・教育委員会	<ul style="list-style-type: none">➤ マーク・コンセプトの発表➤ 主催プログラムの検討状況報告➤ 全国展開の方向性

2. 東京2020 NIPPONフェスティバルについて

2017年

2020年4月頃

7月24日～

東京2020大会の一つの大きな流れ

参画プログラムによる
大会に向けた機運醸成



東京2020 NIPPONフェスティバルの展開

参画プログラムの展開



- ・大会の盛り上げを最大化
- ・様々なステークホルダーの参画
- ・国内外への発信

聖火リレー

東京2020大会
開会式
閉会式

3. フェスティバルの大きな方向性

～文化の祭典でもあるオリンピック・パラリンピック～

- 東京・日本へ世界からの注目が集まるこの時期に、東京2020大会の公式文化プログラムとして、我が国の誇る文化を国内外に強く発信します
- 2回目の夏季パラリンピックを世界で初めて開催する都市として、大会後の共生社会の実現に向けて、多様な人々の参加や交流を創出します
- 聖火リレーを契機に、文化・芸術活動を通じてオリンピック・パラリンピックに参加できる機会をつくり、大会に向けた機運を高めます

4. フェスティバルのコンセプト

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、
全国でくり広げられる文化の祭典、それが東京2020 NIPPONフェスティバルです。

日本にあらゆる国の人が集う本大会に先駆けて、
様々な人と文化が交流する場となるはずです。

地方と都市。日本と世界。

あらゆる境界を超え、ひとつになるその時。

きっと、かつてない文化が生まれるでしょう。

きっと、多様性の力と素晴らしさを実感するでしょう。

きっと、新たな文化と感動が未来につながってゆくでしょう。

その主役は、私たちひとりひとり。

そして舞台は、この国のあらゆるまちとまち。

日本各地の熱気と多様性の融合から、すべては始まります。

東京2020 NIPPONフェスティバル。それは、
この国の新たな可能性を開くフェスティバルです。

5. フェスティバルのマーク



東京2020
NIPPON
フェスティバル

- ▶フェスティバルの象徴となり、
全国へ拡がりのあるマーク
- ▶大会エンブレムの制作者でもある
野老朝雄氏が制作
- ▶大会エンブレムと同じ3種類の四角形を、
同じ数組み合わせたマークが描くのは
「Harmonized Checker= 調和した市松」
- ▶多様性の調和により可能性や希望が広がり、
東京2020 NIPPONフェスティバルが
イノベーティブでアクティブな新しい輝き
を起こしていくことが、デザインに込めら
れている

6. 東京2020 主催プログラム検討状況

東京2020においても、フェスティバルの盛り上がりが全国に波及するよう、東京を中心に大規模な文化プログラムを計画しています。

時期	テーマ (位置づけ)	概要
2020年4月頃 (キックオフ)	大会に向けた 祝祭感	東西を代表する無形文化遺産・舞台芸術の融合による世界初の舞台を2020年の東京で実現
2020年7月頃 (オリンピック直前)	参加と交流	日本文化を通じて様々な人々が交流する場・イベントを創出。世界の心を一つにするフィナーレ
2020年8月頃 (パラリンピック直前)	共生社会の実現	障がい者やLGBTの人々を含めた多様な個性を持つ人々が参画し、街中で様々なアートやパフォーマンス活動などを展開
2020年5月～7月頃	東北復興	東北各県と連携し、東北各地・東京を舞台とした文化プログラムを展開。国内外へ東北の現在の姿を発信

7. フェスティバルの事業体系

主催プログラム

東京2020が主催する4つのプログラム

- ① フェスティバルキックオフ (2020年4月頃)
- ② 大会直前 (" 7月頃)
- ③ 大会移行期間 (" 8月頃)
- ④ 復興 (" 5~7月頃)

共催等による プログラム

大会を象徴するプログラム等を国、地方自治体と連携し実施

▶全国自治体へ呼びかけを実施